

府中発

# ◆特集

# 「協働」でいっしょ！

市民、企業、行政、NPOなどが同じ目的でつながる「協働」。でも、それで、何が出来るのか？ なぜ、今、必要なのか？ いままでとどう違うのか？ 今、市民協働に取り組む人々の活動と想いにフォーカスをあてた！





緑豊かな環境、住みやすく魅力ある府中市。行政、NPO、企業と異なる立場と視点を持つ三人が市民協働について語る。

### 少子高齢化と 扶助費上昇

高野市長（以下市長） 市長に就任し丸2年になりますが、それでも市内で幼稚園長、市議を務めてきました。ずっと住み続

けている府中市には大変愛着を持っています。今年は、昭和29年に1町2村が合併し、市制を施行してから60年目の節目の年です。現在、人口は25万3千人と合併時の約5倍、大きな発展と変化を遂げてきたまちだと思っています。

落合理事長（以下落合） 西武信用金庫では、まちづくりや中小企業の事業などの課題に対し、融資をはじめ様々な支援をしています。

す。預金を地域に融資する比率は全国でもトップクラスで、年々融資額も増え、そのことが地域にも貢献していると自負しております。

千賀理事長（以下千賀） 農工大に25年前に赴任、親や妹が住むなど、府中には縁があります。私の専門は、地域づくり・設計ですが、府中は都会と農村の特徴と雰囲気併せ持つ理想的な構成です。新旧市民の融合など、まちづくりを進めるNPOとして、市民をいかに活動に巻き込むかが課題です。

落合 府中は文化・自然などを大切に、財政面でも多摩地域の優等生でバランスがよい。多摩地域共通の課題ですが、今後は高齢化が進み、いままで納税していた方が援助を受ける側に転換していく。行政だけで解決していくには限界があり、利益優先でなく地域で必要とされる活動を行う団体の育成が大事だと思います。

市長 府中の魅力は、まず歴史。これはお金では買えない財産です。まちには緑も多し。また、大学や企業があり、6万人近くが市外から通勤・通学している。これは知

# 居場所のある

# まちづくり

就任3年目、府中をこよなく愛する高野律雄市長の地域への想い  
東京多摩地域を基盤とする西武信用金庫の落合寛司理事長が地域を応援する理由  
さまざまなフィールドで市民協働を実践してきた千賀祐太郎先生のグラウンドワークとは

### キーワード

【府中の歴史】 府中市中心部にある大國魂神社は、西暦111年創建で、約1900年の歴史をもつとされる。「府中」の市名は、かつて武蔵国の国府が置かれたことに由来する。



キーワード

【eco.(エコ)定期預金】 預金者の利息の一部を助成金として拠出し、地域の環境NPO法人を支援する西武信用金庫独自の定期預金。西武信用金庫も預金者と同額の助成金を拠出する。

力、経済力の源泉であるとともに、地域活動を推進する大きな受け皿となるなど、いろいろな可能性を秘めています。

グラウンドワークと子どもを育てる環境

千賀 近年の様々な地域課題には、今までとは違った解決策が必要です。企業、行政、NPOともに、運営しているのは市民という属性は共通。成熟社会では、市民が「社会全体を支える」という意識が生まれ、市民が最もよく動ける社会をつくる、それが企業の発展にとっても、行政課題の解決にも大事です。私が15年程前から取り組む「グラウンドワーク」は、イギリスで始まった地域を改善する運動ですが、その中には企業も市民と同じ立場で地域活動をし、それが企業やまちの発展にもつながっている。府中でも可能で、企業も市民協働の発展に寄与できると考えています。

市長 地域課題の一つに高齢化社会への対応があります。府中は高齢化率でいうと、多摩地域では低い方から2番目ですが、それでも65歳以上の人口が5万人、人口比で約20%です。データを取り始めた昭和32年の約4%と比べると5倍になります。財政面はこれまで比較的恵まれてきましたが、近年は、「扶助費」、つまり福祉などにかかる予算が大幅に増加しています。  
落合 地方分権が進み自治体の運営が大きく変わる中、府中市には大変良いリーダーがいて、その役割が大きくなっていると思



府中市長 高野律雄氏

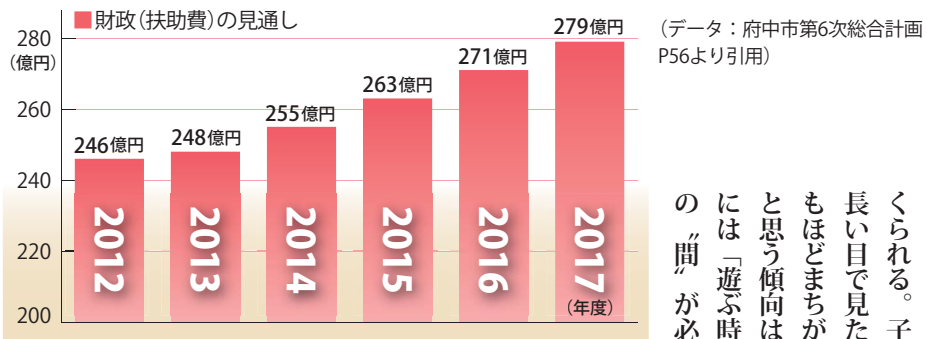
府中の魅力は、まず歴史  
これはお金では  
買えない財産です

います。今後、行政の仕事のうち高齢者の見守りなどは、その必要性を理解するNPOなどに委託されていくでしょう。私たちとしては、地域力が下がると融資を返せないお客様が増える。住民税減少に始まる負の連鎖も起こり困る。まちには企業の経済力も大事だが、住みやすさや子どもの育てやすさ、商売のしやすさといった環境力との両輪が大切です。大きな石の間に小さな石が入って石垣は強くなる。その小石がNPOだと思えます。ただ、NPOは、どうしても経営力が弱い。私たちは地域企業として、こうしたNPOにもっと活躍して

もらおうと、低い金利と運営相談をセットにした事業を行っています。赤字となる商品ですが、NPOの経営力を高め、継続させることが、結果として地域力を高めることとなります。  
市長 企業が、地域を育てる、そこに住む、あるいは働く市民を育てる、といったことに着目されるのは非常に先進的ですね。  
落合 「先進的」とも言えますが、協同組織の金融機関として「当たり前」に戻ってきたのだと思います。  
千賀 子育ての環境力を高めることには賛成です。物理的な意味で、子どもの脳は5



たかの・のりお/1961年府中市生まれ。立教大学卒業。在学中はラグビー部主将を務める。株式会社レナウン勤務。府中わかば幼稚園園長、府中市議会議員(3期12年)を経て、2012年府中市長就任。



高齢化が進んでおり、次世代のパートナーづくりを進めたいと考えています。  
**落合** 多くの人を巻き込むことが大事です。eco.定期という商品で、預金者にこういうNPOにお金が行きましたと報告をし、活動への参加者や賛同者を増やしている。そうやって様々な人を巻き込んで、住んでい

歳までに大人の8割くらいに育つ。同時に脳の仕組みも組み込まれ、「自然的環境」と「社会的環境」によって思考力や感性がつけられる。子育てのための地域力アップは長い目で見た投資です。外でよく遊ぶ子どもほどまちが好きで、将来も住み続けたいと思う傾向は数字にも出ています。子どもには「遊ぶ時間」、「空間」、「仲間」の3つの「間」が必要で、現在、府中にはそれができる環境がある。今後は行政と企業、市民のさらなる協力体制が必要です。  
**市長** 「子育てしやすい街ランキング」というものに、府中市は多摩地域でも上位にランクされています。その理由として「公園や公共施設が多い」ことのほかに「イベントが多い」ことがあります。地域のおまつりや文化センターのイベントなどは、近所の人たちが自分たちで企画・運営するという、まさに市民協働で行われているんですが、ここでも

る地域を魅力的なまちにつくっていく。  
**市長** まちに愛着を持たない、寝に帰るだけの人もいると思うので、そういう取り組みはありがたいですね。まちへの愛着を持つ子どもがそこに住み続けていくことで、協働の担い手にもなっていく。今後は高齢者とそれを支える方々の割合が1対1に限りなく近づくので、お互いに支え合う市民の力なしに市民ニーズの全部をカバーするのは困難です。  
**千賀** 若い方と年配者がふれあう場が必要ですね。  
**市長** そうですね、「いきいきプラザ」で先



西武信用金庫 落合寛司氏

石垣は、大きな石の間に  
 小さな石が入って  
 強くなるんです

駆的な試みを行っています。1、2階が保育所、3、5階が介護予防推進センターという公設の複合施設ですが、毎月、高齢者と子どもの交流事業を行っています。  
**千賀** 様々な機関による相乗効果。それが今までの行政は苦手だったが、そこが変わると効果は2倍3倍になりますね。

**旗振りと  
 価値観の共有**

**落合** 企業の側にも「企業市民」という意識が不足している。地域活動や社会事業は誰かが旗を振らないといけないが、行政が

おちあい・かんじ/1950年神奈川県生まれ。亜細亜大学卒業。1973年西武信用金庫入庫。2002年常勤理事、05年専務理事などを経て、10年6月より現職、西武信用金庫理事長。金融庁や経産省の公務にも携わる。





## 日本で初めての 重度障害児も預かる保育園

NPO法人  
フローレンス



西武信用金庫CHANGEの第一期融資先、NPO法人フローレンス（代表理事 駒崎弘樹）は、「訪問型病児保育」「おうち保育園」などと、子育てと仕事を両立させる支援事業を展開してきた優良NPO。その新たな挑戦が「障害児保育園プロジェクト」だ。

### これまでの制度を活用して

障害児を預けられる保育園がないため、親は育児休業後も職場復帰できないのが現状。国の児童発達支援事業による療育（障害に合わせたリハビリ・訓練）の施設はあるが、保育機能はない。フローレンスは、この制度に長時間保育を組み入れたモデルを立ち上げた。医療ケアが必要な重度障害児も預けられる日本で初めての障害児専門の長時間保育施設だ。公的スキームを活用することで給付が付き、利用料も通常の保育園と同程度ですむ。フローレンスは、こうした障害児保育の問題を解決することによって世論を高め、国の支援がもっと拡充できるようなロビー活動も展開していくという。

**千賀** 本日はありがとうございます。落合 理解者が増えると、向かう方向がぶれなくなる。市長のなさっていることは本当にすごいと思いますね。普段から対話をして実態を理解してもらうことで、価値観を共有していける。

**市長** 「市民と語る会」では、参加者が異なる意見を出し合う場面もあり、市民の皆さんとその場が共有できていると感じます。

**落合** 私たち企業では、「ベクトル合わせ」と言いますが、一番大事なことです。市長と市民の価値観、方向性が合っているとまちづくりが動き始めます。

**市長** そうですね。少しずつでもまちづくりへの想いを共有する方々を増やすと、その方々が核になり、想いが横にも広がっていく。それが市民協働につながるのではないかと思います。

### キーワード

【訪問型病児保育】 急に熱が出たり病気にかかった子どもを預けられる全国初の訪問型・共済型病児保育サービス。

【おうち保育園】 待機児童問題解決のため、マンションの空き部屋や空き家を利用する小規模保育園。2015年から小規模認可保育所が制度化予定。

振ると、それは行政がやってくれるとなってしまう。そこを「企業市民」として、NPOや私たち社会性の高い金融機関が担うべきだと思います。企業の力をぜひ活用していただきたいと思っています。

**市長** 今までは国・都のモデル事業や他市の取り組みなどを参考に事業を行うことも多かったのですが、今後はこれまで以上に市民の声を聞き一緒に上げることが必要だと思います。「市民と語る会」を定期的に開催しています。1回の参加者は多くても50〜60人に限られますが、市民と行政が相互に発信しあうことが、市への愛着や信頼感にもつながると考えます。

**千賀** 先日の市民協働推進シンポジウム企画チームで出た言葉が「小さな役割、私の居場所」。一人一人の市民が、自分の役割を

理解し能力を発揮し、それが自分の居場所になる。それを地域の中に自分たちでつくっていく。



府中市民活動支援センター千賀裕太郎氏

# 外でよく遊ぶ 子どもほど 自分の街が好き 住み続けたいと...

せんが・ゆうたろう／1948年北海道生まれ。東京大学卒業。農林省勤務、宇都宮大学農学部助教授、東京農工大学農学部教授を経て、現在、同大学名誉教授、NPO法人府中市民活動支援センター理事長。榎田学会会長、日本グラウンドワーク協会理事なども務める。